

小型有孔虫カタログ(2)

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北里, 洋, 池谷, 仙之 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.14945/00025601 |

小型有孔虫カタログ(2) 北里 洋*・池谷仙之*

Haplophragmoides canariensis (d'Orbigny, 1839)

Nonionina canariensis d'Orbigny, 1839, *Foraminifères des Iles Canaries*. In : *Hist. Nat. des Iles Canaries par MM. P. Barker—Webb et Sabin Berthelot*. Bethune, Paris, France, tome 2, pt. 2, Zool., p. 128.

Haplophragmoides canariensis (d'Orbigny), Cushman, 1910, *U. S. Nat. Mus.*, pt. 1, p. 101—102, fig. 149.

〔標式地〕 Tenerife 島、Canary 諸島、大西洋。

〔記載〕物に付着しないで生活する。扁平な平面包旋回 (planispiral, involute) である。旋回
の中心はへこんでいる (umbilicate)。外周縁はわずかに小葉状で、外周縁のへりは丸い。成熟個体
は3旋回で、最終旋回は7~9室よりなる。縫合線は直線状で少しへこんでいる。房室はかなり球形
に近く (subglobular)、旋回面の方向に少しつぶれている。殻は砂粒と様々な量のセメント物質から
なる。砂粒は大小まちまちであるが、外表面ではでこぼこではなく平滑になっている。殻の厚さは薄
い。口孔はアーチ状で最終房室の赤道面基部にあいている。色はこげ茶色から白灰色である。

〔計測値〕IGSU—F—018, D—max : 0.534 mm, D—min : 0.456 mm, T : 0.224 mm ; IGSU—F—
019, D—max : 0.520 mm, D—min : 0.386 mm, T : 0.220 mm.

〔地理的分布〕世界中の汽水域から深海域まで広範囲に分布している。

〔生態〕汽水域では潮のかなり甘い所に生息する。浜名湖では *Ammonia beccarii* とほぼ同じ分布
をする。

〔層位的記録〕死後、殻がすぐ分解するため、化石として残りにくい。従って、いつ頃から出現し
ていたかは不明。

〔解説〕この種は d'Orbigny によってカナリヤ群島、テネリフェ島の海岸の砂中に含まれていた個
体について記載された。しかし、この種についてのその後の報告(例えば、Brady, 1881 ; Cushman,
1910 など)は、ほとんどすべて深海域から産出したものである。日本近海では主として内湾に分布
している。このように分布域がまちまちな種類の場合、多くはいくつかの種に本来分けられるべきも
のをまとめてしまっている可能性がある。この種について汽水域の種と深海域の種とは形態的に区別
できないが、別種かも知れない。今後、詳細な検討を必要とする。

Explanation of Plate

Haplophragmoides canariensis (d'Orbigny, 1839) Figs. 1-7.

Figs. 1-2. Specimen number; IGSU-F-018, Locality; Lat. 34°
44'08"N, Long. 137°35'27"E, Hamana-ko, Hamamatsu,
Shizuoka Pref. (Recent fine sand, depth 3.3m).

1a,b. Stereo pair of side view. X90

2a,b. Stereo pair of edge view. X90

Figs. 3-7. Specimen number; IGSU-F-019, Locality; the same
locality as IGSU-F-018 specimen.

3a,b. Stereo pair of left side view. X96

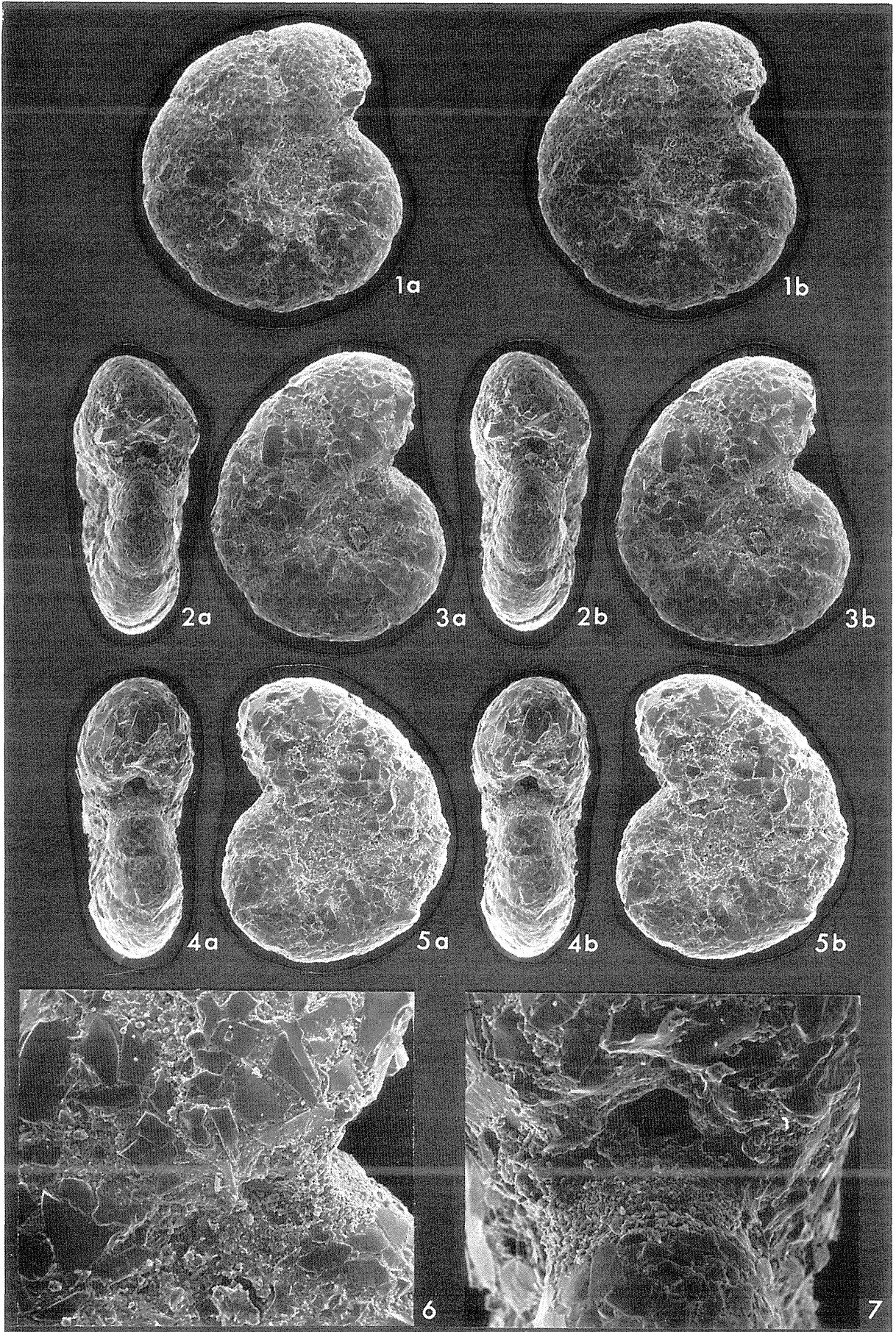
4a,b. Stereo pair of edge view. X96

5a,b. Stereo pair of right side view. X96

6. Enlargement of apertural area. X240

7. Enlargement of aperture. X360

(photographed by Mr. Y. Toyoda)



Elphidium crispum (Linnaeus, 1758)

Nautilus crispus Linnaeus, 1758, *Systema Naturae*, Ed. 10, p. 709 (*vide* Ellis and Messina, 1940).

Elphidium crispum (Linnaeus), Cushman and Grant, 1927, *Trans. San Diego Soc. Nat. Hist.* v. 5, p. 69—82.

〔標式地〕地中海。

〔記載〕物に付着しないで生活する。やや偏平な平面包旋回で、両凸状である。巻きの中央部には臍栓がある。外周縁はなめらかである。外周縁のへりはするどく尖っており、はっきりしないがキールが発達する。最終旋回の室数は15以上。房室は細長く、成長の方向に凸にカーブしている。房室の表面の半分以上は多数の *ponticulus*〔ラテン語で小さい橋〕に占められている。*ponticulus* は一つ前の房室の平滑な房室表面の部分につながっている。しかし、内部では *ponticulus* を通じて前の房室と連絡していることはない。各々の *ponticulus* と *ponticulus* との間の小さなくぼみには小突起 (*tubercule*) がある。小突起は口孔部の前面に特に多く存在する。口孔は最終房室の赤道面内縁に多数開口している。口孔面中央面にも小突起が多数存在する。殻はガラス状石灰質 (*calcareous hyaline*) で表面に細かい壁孔があいている。脈管系 (*canal system*) はよく発達している。脈管系のうち、旋状管は房室の臍側のへりを走り、臍栓を貫く脈管とつながっている。また隔壁内の脈管はリトラルプロセスの直下であって、枝脈管によって表面に開口している。

〔計測値〕IGSU—F—020, D—max : 0.500 mm, D—min : 0.425 mm, T : 0.202 mm ; IGSU—F—021, D—max : 0.453 mm, D—min : 0.422 mm, T : 0.192 mm ; IGSU—F—022, D—max : 0.640 mm, D—min : 0.552 mm, T : 0.242 mm.

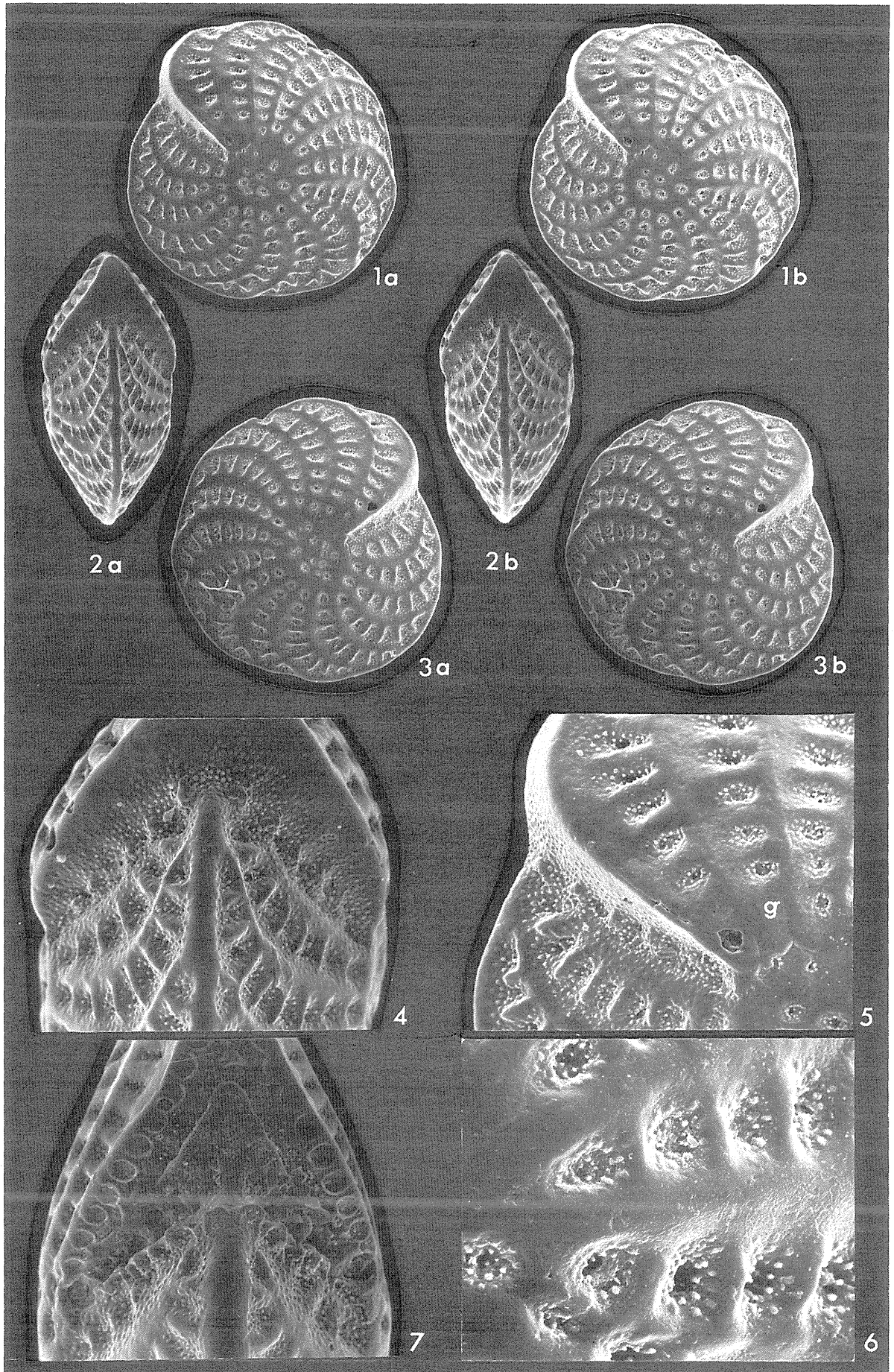
〔地理的分布〕極地方を除く世界中の浅海域に分布する。

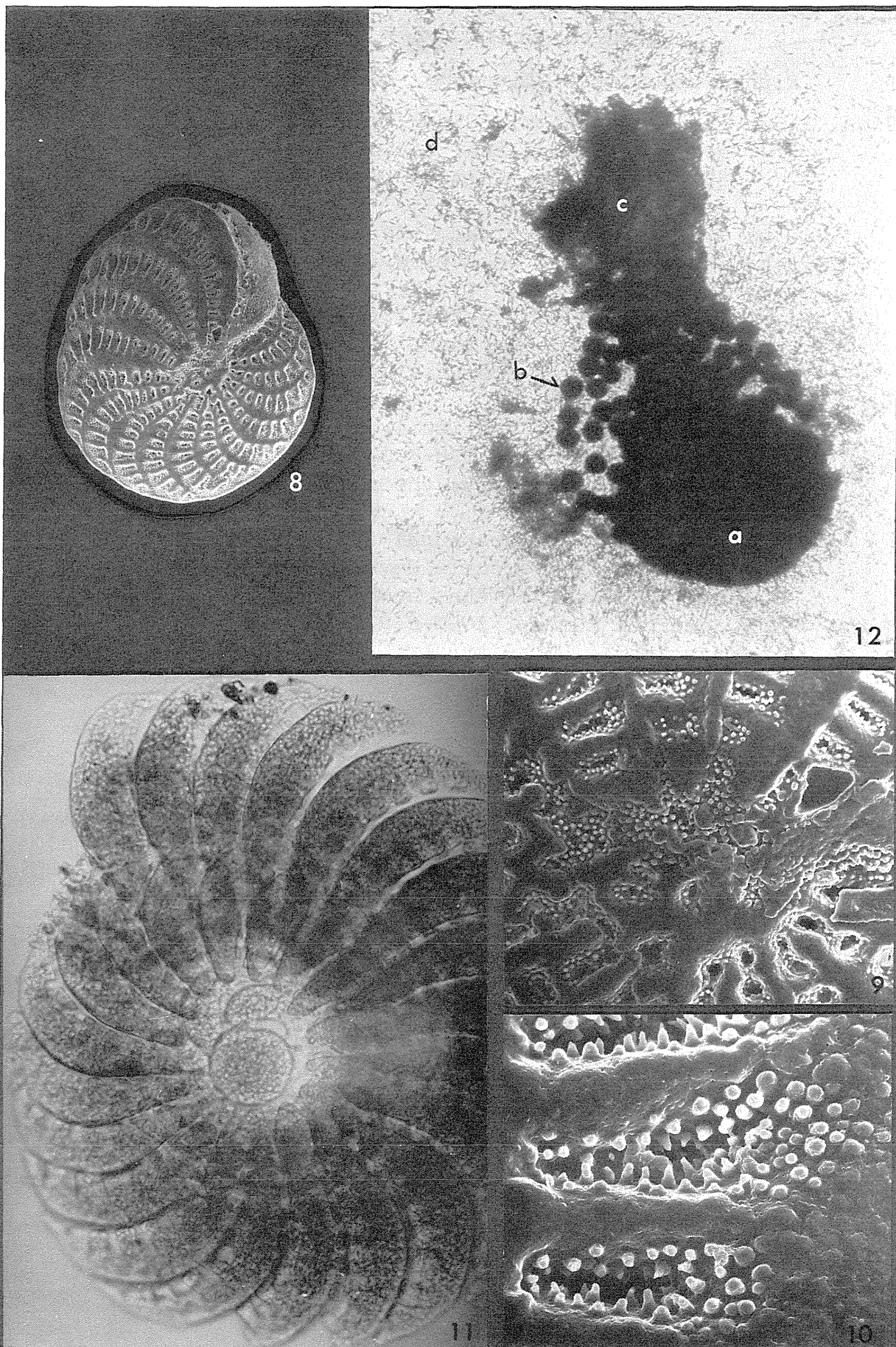
〔生態〕浅海砂底で砂粒に偽足を出して付着するかまたは海藻に付着して生活する。

〔層位的記録〕始新世—現世

〔解説〕この種も Linnaeus 以前から知られており、*Cornu Hammonis* とか *Nautilus minimus* とか呼ばれていた。世界中の潮間帯から上部浅海帯に多く生息し、採集、飼育が容易であることから古くより生体の研究が多くなされ、有孔虫の生活環が初めて明らかにされたのはこの種である。

Lister (1895) は英国、プリマス付近に多数生息する *E. crispum* の飼育観察を行い、有孔虫の殻に現われる二型現象が、生活環の中での二つの異った生殖様式による世代交番と対応していることを明らかにした。その後、Jepps (1942), Myers (1943) などにより、現在ではこの種の生活環境はほぼ解明されている。飼育は比較的容易であり、底生有孔虫の生物学的特性を観察するため、現在静岡大学でもシャーレに飼育している。最近殻の脈管系についても SEM を使ったの研究が進められている (Ujiié, 1975 ; Hansen and Lykke-Andersen, 1976 など) が、その機能的意味についてはまだ全くわかっていない。





Explanation of Plate

Elphidium crispum (Linnaeus, 1758) Figs. 1-12.

- Figs. 1-6. Specimen number; IGSU-F-021 (megalospheric specimen), Locality; Lat. 34°40'12"N, Long. 138°58'36"E, Toura, Shimoda, Shizuoka Pref. (Recent beach sand).
- 1a,b. Stereo pair of right side view. X108
 - 2a,b. Stereo pair of edge view. X108
 - 3a,b. Stereo pair of left side view. X108
 - 4. Enlargement of apertural face. Many tubercules distribute on the face. X288
 - 5. Enlargement of apertural region on right side. X288
 - 6. Enlargement of ponticuli on right side. X600
- Fig. 7. Specimen number; IGSU-F-020 (megalospheric specimen), Locality; the same locality as IGSU-F-021 specimen.
Enlargement of apertural face of the penultimate chamber. Many canals develop around the peripheral region of the chamber. X288
- Figs. 8-11. Specimen number; IGSU-F-022 (microspheric specimen), Locality; Lat. 35°09'49"N, Long. 139°37'02"E, Aburatsubo, Misaki, Kanagawa Pref. (tide pool).
- 8. Side view of the specimen which has already released the gamonts. X78
 - 9. Enlargement of the umbilicus. X324
 - 10. Enlargement of the chamber surface. Many ponticuli and tubercules distribute on the surface. X960
 - 11. Asexual reproduction during the experimental culture. X50
a) parent test; b) embryos; c) debris; d) diatoms.
- Fig. 12. Specimen number; IGSU-F-023 (megalospheric specimen), Locality; the same locality as IGSU-F-022 specimen.
Protoplasm in the living specimen. Shell is decalcified by EDTA solution. X175
(Photographed by Mr. Y. Toyoda)